

答 辞

暖かい日の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始めた今日、私たち五十八名は卒業の日を迎えました。私たち卒業生のためにこのような晴れやかな卒業証書授与式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。

私たちは、信楽高校での三年間で様々なことを学び、経験してきました。コロナ禍の中入学してきた私たちは、マスクを取ることもできず、同級生の素顔も分からない中で授業を受けていました。グループ活動等もできず、一人で学びを深める日々が続きました。二学期には、午前の授業は学校で、午後の授業は規制がかかることもありましたが、当時を思い返すと慣れないことも多く、不安に感じることがもあり、何よりも友人と一緒に授業を受けられないことを辛く感じていましたが、今思い返すと、当たり前のように学校に来ることができるようになったことがありがたいことなのだと感じています。

二年生からは、各系列に分かれて専門的な内容の授業を受けることになりました。それぞれの授業で自分の知識や技術を高めてきましたが、時には共に学ぶ仲間がライバルのように思えることもありましたが、自分の作品が採用されたときや、テストで高得点を取ることができたときは嬉しかったですが、友人の作品が採用されたり、自分より高得点を取った友人の姿を見たりしたときは、悔しい思いをしたこともありましたが、しかし、そのようにお互いを高め合うことができる仲間がいたからこそ、苦しい時には支え合い、嬉しい時には喜びを分かち合いながら、三年間勉強を続けてこられたのだと感じています。

部活動では、かけがえのない経験をすることができました。中学生の時にしていた部活動を続けたり、信楽高校で新しい部活動にチャレンジしたりした中で、私たちは自分の得意なことや、新たな自分を見つけることができました。さらに、部活動を通して、日頃話したことがない先輩や後輩、同級生と仲良くなることもできました。そのような仲間と、お互いにアドバイスをしながら高め合い、目標に向かって努力を続けました。ともに目標を達成することができた時はとても嬉しかったですし、このメンバーだったからこそ目標を達成することができたのだと強く感じることもできました。また、活動の中で話したりふざけ合ったりした仲間との日々も忘れられません。部活動が楽しく、最後まで続けることができたのは、そのような仲間の存在があったからです。これからはそれぞれ別の道に進むことになりましたが、また集まって話したりふざけ合ったりすることができ、ことを祈っています。

修学旅行では、兵庫県、徳島県、香川県に行きました。四日間の日程で特に印象に残っているのは、淡路島でのSDGs研修と、徳島県でのラフティング体験です。SDGs研修では、地球環境問題について新たな視点で考えることができました。実習では、畑を耕したり、火おこし体験をしたりと、普段の生活では体験できないことをすることができました。ラフティング体験は、最高のコンディションで行われました。はじめは期待と不安を抱いていましたが、大自然の中でのスリリングな体験で不安を忘れ、全力で楽しむことができました。

体育祭は、私たちが一、二年生だった頃は、先輩方がダンスを教えたり、団に気合と熱が入るように鼓舞してくれたり、団全体を盛り上げてくれていました。そのような先輩方と同じようにできるのかと不安を抱きながら迎えた三年生での体育祭。人前に立って声掛けをしたり、バツクデコの製作をしたり、後輩にダンスを教えたりと、練習の時から多くのことをしなければならず、手が回らないことや、上手いかないうことがありました。そんな時に、先生方や友人がフォローしたり励ましたりしてくれました。もう一度頑張ろうという気持ちになりました。また、三年生が上手く教えられていない時にも、話を聞いてついてきてくれた後輩の皆さんのおかげで、何とか本番を迎えることができました。最も練習に時間を割いたダンスは、本番で多くの人に見られていてとても緊張しましたが、当初とは見違えるほど上達し、団結力も生まれたダンスを最後までやり遂げることができました。ダンスが終わった後に拍手をもらった時は、とても大きな達成感を得ることができました。

文化祭は、私たちにとって毎年新しいことに挑戦する行事でした。一年生の時はコロナ禍の影響で文化祭が縮小され、クラス発表のみのどこか味気なさを感じる内容でした。二年生の時にはクラス企画ができるようになり、様々な工夫を凝らして教室を飾り付けたり、接客をしたりと、楽しい文化祭にすることができました。また、先輩方がクラス発表でされていた「アナと雪の女王」は演出も素晴らしく、圧倒されるものがあり、来年は自分たちもあのようなクラス発表をしたいと憧れの気持ちを抱いていました。そして、三年生での文化祭を迎えました。昨年までのクラス発表とクラス企画に加え、模擬店を出すことができ、コロナ禍以前の文化祭に近い形で行うことができました。クラスで文化祭のことについて話し合う時、初めは何をすればいいのか悩んでしまい、話を前に進めることができない日もありましたが、文化祭が近づくにつれて、皆が文化祭を良いものにしたという目標を持ち始め、団結するようになりました。いよいよ迎えた文化祭当日、昨年の先輩のクラス発表を超えられるように、各クラスで演出が工夫された、素晴らしい内容の劇が披露されました。模擬店についてもPTAの方々にご協力をいただいたり、各クラスの出店があったりと、私たちが経験した中で一番盛り上がった文化祭となりました。高校生活三年間の中でも、特に思い出に残っています。

こうして振り返ると、私たちはたくさんの人たちに支えられました。まず、在校生の皆さん。頼りなかったかもしれないかもしれませんが、私たちについてきてくれてありがとうございました。部活動や体育祭が良い思い出にできたのは、皆さんの力があってこそだと思っています。卒業なんてまだ先のことと思うかもしれませんが、三年間はあっという間です。勉強や部活動はもちろん、友人と過ごす時間を大切に、悔いが残らないように過ごしてください。私たちは、今日で信楽高校を去ります。これから、皆さんが信楽高校を引っ張る番です。その中で、困ることや悩むこともあると思います。そのような時は、一人で抱え込まずに、家族や友人、先生方を頼ってください。きっと正しい方へと導いてくれます。皆さんには、ぜひ多くの人から応援される人になってほしいと思っています。これからも頑張ってください。

いつも温かく、私たちの成長を見守ってくださった地域の皆様。たくさんのご指導をいただきありがとうございました。歴史ある信楽で勉強ができたのは、地域の皆様のご協力があったからだと思います。私たちが卒業した後も、この場に在る在校生や、これから入学してくる新入生に、厳しくも温かいご指導をいただけますと幸いです。

私たちを支えてくださった先生方。いつもわかりやすい授業をしていただき、ありがとうございます。特に授業の内容の覚え方や、就職後、進学後に役立つ知識を教えてください、授業の合間にしてください。様々なお話が面白かったりと、毎日授業を受けるのが楽しみでした。先生方の授業を受けられなくなると思うと寂しい気持ちもありますが、先生方に教えていただいた基礎をもとに、今後も様々なことを学んでいきたいと思えます。

部活動の顧問の先生方には、メリハリをつけることの大切さを教えていただきました。また、大会やイベントに参加させていただく中で、様々な人と出会い、自分が目指すべき人物像や仕事について考えるきっかけを与えていただきました。ありがとうございました。

進路指導をしていただいた先生方。どうしていいか分からず不安を抱いていた私たちの話を聞き、私たちの背中を押してくださいました。試験の日が近づくと、放課後遅くまで面接指導や小論文指導をしてくださり、私たちが自信をもって試験に臨めるように励ましてくださいました。今、私たちが次の舞台に進むことができるのは、進路指導をしてくださった先生方のおかげです。親身になっていつも全力で応援してください、ありがとうございます。

三年間私たちを支えてくださった学年団の先生方。先生方はいつも私たちの些細な変化に気付き、いつも相談に乗ってくださいだったので、心が軽くなり、今日まで前を向いて進んでくることができました。学校行事などのイベントがあった時には、私たちを盛り上げようと様々な案を提案していただいたり、クラスが団結するように声をかけていただいたりしたので、私たちも自分にできることや得意なことを生かして頑張ろうと思えました。時折、先生方の言葉を素直に聞くことができず、反抗的な態度をとってしまった時もありませんでしたが、時には厳しく、時には優しく、私たちに寄り添い支えてくださいました。三年間楽しく充実した学校生活を送れたのは、先生方のおかげです。こんな私たちでしたが、私たちの学年主任として、また私たちの担任として、私たちを温かく見守ってきてくださり、ありがとうございます。

これまでの三年間、色々なことを一緒に過ごした同級生のみんな。ぶつかり合い、喧嘩と仲直りを繰り返す中で、お互いのことを理解し合い、絆を深めることができました。部活動や勉強では、仲間であると同時にライバルでもありました。お互いに支え合い、切磋琢磨できる仲間がいるというののは一生の宝物です。また、日常生活の他愛もない会話で教室を笑顔でいっぱいに満たした毎日は、忘れられない思い出です。微妙な変化に気付いて声をかけてくれたり、親身になって相談に乗ってくれたり、本当に最高の友人に囲まれているのだと感じます。私はこの学校に入学でき、皆と出会え、三年間を共に過ごせて本当に良かったです。この先、それぞれの道に進んでいきますが、壁にぶつかる時もたくさんあると思います。

そんな時は、これまでの楽しい思い出や、皆の笑顔を思い出して、お互い頑張りましょう。どんな時も一緒にいてくれてありがとうございます。

そして、私たちをここまで育ててくれた、お父さん、お母さん。生まれてから今まで私たちを育てることは、決して楽ではなかったと思います。私たちが楽しい学校生活を送れるように陰ながら支えてくれてありがとうございます。ございました。無茶なことを言って困らせたり、進路を決める際には考えを反対されて、お父さん、お母さんの言うことを素直に聞けず、ひどいことを言って悲しませたり、心配させたりしたこともありました。それでも、どんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれるその温かさが本当に嬉しくて、何度か心の中でありがとうと思いました。普段は照れくさくて言えませんが、いつも感謝しています。優しく厳しく育ててくれて、本当にありがとうございます。私たちはだんだん自立していき、いつか親元を離れていきますが、それまでもうしばらくお世話になります。最後にになりましたが、これまで私たちを支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。信楽高校で学んだことを糧に、誇りを持ち、思いやりと優しさに溢れる立派な大人に成長できるように、これからも頑張つて努力し続けていきたいと思います。

これからの信楽高校の益々の発展を心より祈念して、答辞といたします。

令和六年三月一日

卒業生代表

大久保 樹

加藤 唯奈